



文教大学教育研究所  
〒343-8511  
埼玉県越谷市南荻島 3337  
Tel. 048-974-8811

# 教育研究所 ニュース

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kyouken/>

2014.6 第40号

- 巻頭言
- 2014年度教育研究所  
研究部・研修部の取り組み
- 2013年度世界の教科書展  
デジタル教科書展の報告
- 第14回「教員のためのエク  
セル入門講習会」のお知らせ
- 「定例研究会」発表一覧

## 反転授業（Flipped Classroom）の可能性 「教える」から「促す」へ

文教大学教育研究所 所長 今田 晃一

学校で教わったことを自宅で復習するという従来のやり方を逆転させる「反転授業（Flipped Classroom）」に、注目が集まっている。自宅などであらかじめ動画教材などを使って予習し、基本的な知識などを学んだ上で、授業ではグループ学習などを積極的に取り入れ、思考力やコミュニケーション力の育成など応用的な学習の充実をめざすものである。反転授業は、ICT（情報通信技術）の発展にともない、2000年代のアメリカの大学・高等学校を中心に始まった教育方法であり、わが国でも教育の情報化にともなって小学校も含め、各地で試行されるようになってきた。

反転授業については今年になって一般紙でもしばしば取り上げられるようになった。読売新聞は、「教育ルネサンス」のコーナーで5月には6回（22日、23日、28日、29日、30日、31日）にわたって反転授業について実践校の事例を紹介した。佐賀県の武雄市では、市立の小学校全11校で反転授業を一部導入している。そのきっかけは、2011年からの全児童3000人へのタブレット端末の無償貸与であった。タブレット端末のさらなる有効活用の検討から、反転授業にたどり着いたという。ちなみに佐賀県は、教員採用試験においても電子黒板を使った模擬授業（10分間）を、2013年度から二次試験に課している教育ICTの先進地でもある。

このような先進的な事例を通して見えてきた反転授業のメリットとしては、学習者が予習の習慣ができて学習に対し意欲的になったこと、グループ学習で他のメンバーへの説明や討論の場が増えたことにより、理解力や説明力、コミュニケーション力などが向上したと報告されている。反面デメリットとして、家庭学習しない子への対応、視力への悪影響、タブレット端末の目的外使用などとともに、教員の意識改革が重要な課題として示されている。教員の役割は、「教える」から「促す」に変わり、グループ学習を充実させるファシリテーターとしての力量も、反転授業には求められているのである。

筆者は反転授業の先駆者であるアメリカの元高校教師のアロン・サムズ氏（Aaron Sams）のセミナーを受ける機会を得た（東京大学大学院情報学環・反転学習社会連携講座、2014年5月24日）。アロン氏は講演の中で、反転授業は教室にみんなで集まった時間を少しでも充実させるという発想を大切にすること。そして“Pedagogy must drive technology.”を強調した。まず教育学ありきであり、技術に教育を合わせることは決してあってはならないと。日本になじむ反転授業の在り方を検討する過程で、次期学習指導要領の中核となる21世紀型学力とそこで求められる教師像に思いを馳せたい。

## 2014 年度教育研究所 研究部・研修部の取り組み

【教育研究所研究部】では 2014 年度事業計画に基づき、4つの事業を実施する。

- 1) 『教育研究所年報』第 23 号の発刊。2013 年度の事業報告を中心に研究所の事業活動をまとめる。
- 2) 「定例研究会」の実施。2014 年 5 月から（第 83 回）から翌年 3 月（第 85 回）までの計 3 回。本研究所客員研究員による発表が行われる。
- 3) 諸外国の教科書収集。2014 年度はトルコの小学校の教科書を購入する。
- 4) 「世界の教科書展」の開催。2014 年度はインドの教科書を特集し、本学における藍蓼祭において展示する。

「世界の教科書展（2013 年 11 月 1 日～3 日）」



- 5) 客員研究員の受け入れ。2014 年度は国内の学術機関（他大学を含む）から計 12 名の客員研究員を受け入れる。

【教育研究所研修部】では、2014 年度事業として次のものを予定している。

- 1) 第 15 回「教員のためのエクセル入門講習会」を 8 月 2 日（土）・3 日（日）に実施する。講師は久喜市立清久小学校の新巻光介教諭。ここではエクセルの簡単な操作を学習し、学級会名簿や時間割表作成などの実習を行う予定でいる。
- 2) 『教育研究所紀要』23 号の発行。本号では特集テーマを「『学力テスト』についての結果を基にした考察と提言」とし、近年実施された PISA や全国学力テストの結果から見えてくるものに関する論文を募集する。併せて従来通りに「自由研究」「教育実践研究」の論文、ノート、報告も募集する。
- 3) 『教育研究所ニュース』40 号、42 号の発行。教育研究所の活動の様子を伝えるニューズペーパーで、今田晃一所長の巻頭言、研究部・研修部の活動報告、定例研究会や講習会、教科書展の案内などを掲載する。
- 4) 『文教大学の授業』48 号・49 号・50 号・51 号の発行。越谷・湘南両キャンパスで活躍する教員の授業を紹介する。
- 5) 教育研究所ホームページのリニューアル。更に使い勝手の良い HP になるよう、今年度中を掛けて様相を新たにす。越谷市の公開授業に関する案内も新設する予定でいる。

（研修部主任 加藤 純一）

### 第 14 回教員のためのエクセル入門講習会(2013 年 8 月 8 日～9 日/3502R)



大好評の学生サポーター



毎年キャンセル待ちがでるほどたくさんの申込みがあります

## 2013 年度「世界の教科書展」

## 特集 ブラジルの教科書 報告

2013 年度の「世界の教科書展」ではブラジルの教科書を取り上げた。ブラジルの経済成長は近年著しく、2011 年度の GDP は 2 兆ドル（世界 6 位）、国民一人当たりの所得は 1 万ドルに達している。しかしその一方で貧困の格差は依然として大きく、社会的な不満の声がいまなお噴出している。ブラジル社会がこの 10 年間に達成した最も重要な成果のひとつが教育改革である。新教育制度では義務教育が 8 年制から 9 年制に変更され、また 2010 年度までに全ての 6 歳児に公立学校への入学が保障された。ほかにも広大な国土をもつ事情から、学校が近隣に存在しない僻地居住者向けにラジオ・テレビ・郵便などを活用した遠隔教育の実施や、独自の言語・文化をもつ先住民に対しては独自の教育を行う権利を認めるなど、ブラジルの教育改革は多様なアプローチ、柔軟性、そしてスピードを特徴としている。

2013 年 11 月 1 日から 3 日までの 3 日間で、計 282 名の来場者があった。アンケートの回収率 66.3%（187 名）も高く、本学学生・卒業生をはじめとして、保護者ならびに一般来場者から多くの声が寄せられた。「世界の教科書展が今年で 20 回目を迎えていたことを知り、とてもすばらしい事だと思うので、今後も続けていって欲しいと思います。なかなかこういう機会がないと見ることができないのでとても良かったです」（本学学生家族）、など、非常に好意的な回答が多かった。

2014 年度「世界の教科書展」は、インドの教科書を集める予定である。インドにおいて IT 産業が急速に発展している最大の要因は優秀な人材の育成に求められる。その背景には伝統的な数学教育があり、それは単に計算法を習得させるのではなく、証明問題を中心とした論理的な思考力の育成を特徴としている。小学校で使用されている教科書を通じて、実際のインド教育を体感していただきたい。（研究部主任 平 正人）

## 2013 年度「デジタル教科書展」

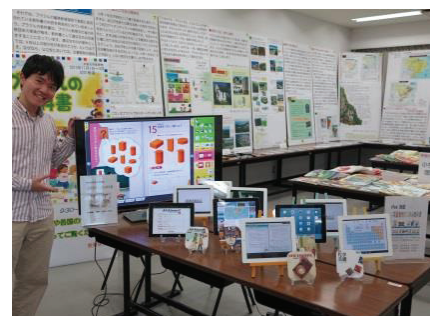
## 指導者用および学習者用（iPad 対応）

例年の「世界の教科書展」に加えて今年度は試行的に、デジタル教科書についても一部展示コーナーを展示教室入口に設けて実施した（写真下）。

文部科学省は 2020 年までにデジタル教科書と一人一台のタブレット端末を配布し、ICT（情報通信技術）を利用して一斉授業に加えて、個別学習、協働学習の充実をめざすとしている。

デジタル教科書は、大きく分けて指導者用デジタル教科書と学習者用デジタル教科書の 2 種類がある。本展示では、指導者用デジタル教科書では東京書籍の算数（1 年生～6 年生）をデジタルテレビで操作する状態で、学習者用デジタル教科書では東京書籍の iPad 版の高校教科書（家庭科、国語、世界史、地理、数学、生物、化学、情報、英語）9 種類を観覧者が自由に使用できる状態で設置した（写真上）。展示にはスタッフが常駐し、随時説明にあたったが（写真下）、実際の授業での使用方法のイメージが見えないとの意見も多かった。そのため来年度は、デジタル教科書を使った模擬授業も期間中に一部行う予定である。なお教育研究所の展示に対して、2013 年度藍蓼祭の優秀団体賞を受賞した。ここに改めて謝意を表明したい。

（所長 今田晃一）





第15回  
教員のための  
エクセル入門講習会

2 頁の「研修部の取り組み」でも触れたように、本年度も標題「教員のためのエクセル入門講習会」を実施することとなった。近年、リピーターも増えてはいるが、やはりエクセルの基本的な操作の仕方を学びたいとする講習生が多数占めている。今回は講師の新巻光介教諭の取り計らいにより、2 日目の午後に Vlookup 関数を用いた作業を予定している。なお、参加者は例年通りに申込み先着順で受け付ける。

日程：2014 年 8 月 2 日（土）～3 日（日）

場所：文教大学越谷校舎 3 号館

対象：小学校教員

定員：40 名

講師：久喜市立清久小学校 新巻光介教諭

講習会内容

月日	研修時間	内容
8/2 (土)	10:00～	開講式
	10:10～ 10:30	講義 エクセルの紹介と事例
	10:30～ 12:00	実習 エクセルの基本操作 名簿作成/データの並べ替え
	13:00～ 14:30	実習 エクセルでワークシート作り セルの書式設定/画像挿入/印刷
	14:45～ 16:00	実習 学級会計簿の作成 数式/異なるシートへのリンク
	8/3 (日)	10:10～ 12:00
13:00～ 14:00		実習 エクセルでアンケート集計 集計(if、count、Vlookup 関数)
14:10～ 15:40		実習 エクセルで時間割作り
～16:00		閉講式

(研修部主任 加藤 純一)

公開「定例研究会」発表一覧

第83回 5月10日（土）

■特別講座：13時～ 12101教室（12号館）

「教職を目指すみなさんへ ～これで安心、教育実習～」

講師：越谷市教育センター主任指導主事 菊池邦隆氏

■定例研究会：14時10分～ 12102教室（12号館）

・「保育者養成における保育者の専門性獲得に関する研究」

綾 牧子

・「多職種連携のチーム医療を推進するための歯科衛生士会の取り組み」

江田 節子

・「中学生および大学生の情報行動に関する研究～中学生、大学生、マレーシアの学生への情報行動調査の比較～」

村山 大樹

・「社会科教育における地域博物館の活用・連携の再検討」

加藤 紫識

第84回 10月5日（土）

■特別講座：13時～ 12101教室（12号館）

「越谷市が求める教師像（仮）」

講師：越谷市教育センター指導主事

■定例研究会：14時10分～ 12102教室（12号館）

・「学校事務からみた生徒支援のありかた（仮）」小林 大介

・「よりよい学級経営を目指して 一新任教員的視点からの再考（仮）」小関 友美子

・「幼稚園、保育所と小学校とのカリキュラム接続の研究」梨子 千代美

・「社会教育とジェンダー（仮）」阪本 陽子

・「学校・地域が連携する家庭教育支援の考察(2)」

栗原 保

・「豊かな人間性を育む学級経営の実践 ～自己肯定感を高める指導法の工夫～」清水 香保里

・「iPadを用いた授業づくり ～iPod touchを活用した実験・観察～」長田 朋之

・「教育ICTを活用した授業づくり～「朝日新聞デジタル for school」を用いた実践～」村橋 直樹

第85回 3月7日（土）

■定例研究会：13時～ 1035教室（10号館）

…興味のある方は、どうぞご参加ください…

2014年度 教育研究所スタッフ

所 長 今田 晃一

研究部主任 平 正人 研修部主任 加藤 純一

教 員 早川 明夫 事 務 紀井佳奈子